

舟運ツアーの評価と改善

芝浦工業大学 学生会員 ○鈴木 千博

芝浦工業大学 フェロー会員 遠藤 玲

1. 研究背景・目的

江東内部河川は、江戸時代には富岡八幡宮などへの参拝客を乗せた観光船などで賑わい、江戸庶民に開かれた粋な遊び空間として栄えていたが明治時代からの工業化によって徐々に魅力を失っていった。

近年は水質が改善してきており、江東内部河川やその周辺地域の魅力を再活用した舟運ツアーの開発が求められている。しかし、深川地域に数多く残っている貴重な活性化資源を十分に活用できていないのが現状である。2020年のオリンピック・パラリンピックで多くの外国人が訪日すると見込まれ、それまでに深川の魅力を河川側からアピールする必要がある。先行研究では、スカイツリー～門前仲町間の舟運ツアーについてアンケートを用いて支払い意思額を検討した。今年度は、先行研究をもとに舟運ツアーを有料運航し、満足度調査を行う。そこで得た結果を分析することで次年度以降の事業化を検討する。

2. 調査・取り組み

(1) 舟運ツアープラン

本研究では、図1に示す【Aルート】と【Bルート】で実証実験を行い、アンケートを行った。潮の影響により橋の下面とのクリアランスに支障が生じる日があるため2種類のルートを作成した。また、下船後にそれぞれの地域を観光してもらうことを目的にルートを片道に設定した。

料金は昨年の研究結果に基づき税込みで通常ツアー2400円（子供料金1200円）、昼出発お弁当付きツアー3300円（子供料金2100円）と設定した。

(2) 舟運ツアー実証実験アンケート概要

本格運行に向けて運航の内容を検討するためにアンケート調査を実施した。このアンケート調査ではツアーに興味を持った理由、情報を入手した場所、ツアーの満足度、お弁当の評価、乗船した感想・今後の改善策などを中心に項目を作成し紙媒体で行った。乗船者数総計は大人85名、子供7名で、その内回収できたサンプル総数計は74枚だった。（表1）



図1 江東区内部河川の地図と企画した舟運ツアーのルート図（元図は東京都建設局より）

表1 アンケート概要

	黒船橋乗船場発	おしなり公園船着き場発
日程	2019年11月9・16・17・23日	2019年11月10・16・17・23日
実施回数	5回	4回
回収枚数	46枚	28枚

(3) 満足度調査アンケート

アンケートの分析内容としては主に満足度を中心に分析した。乗客のツアーへの満足度をルート、ガイド、金額の3項目に分けて行った。また、集客の戦略を立てるため乗客の個人属性についても分析。アンケートの記入はツアー終了後に記入していただいた。

3. 満足度調査アンケートの結果

(1) 個人属性

今回の乗客の男女比は女性が40人、男性が29人であった。また年代の分布としては、30代以下の乗客が9人なのに対し40代以上が58人と客層に偏りがあった。（図2）

キーワード 舟運、地域活性化、有料運航、江東内部河川、門前仲町

連絡先 〒135-8458 江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学工学部土木工学科 Tell:03-5859-8361 Mail:ah15074@shibaura-it.ac.jp

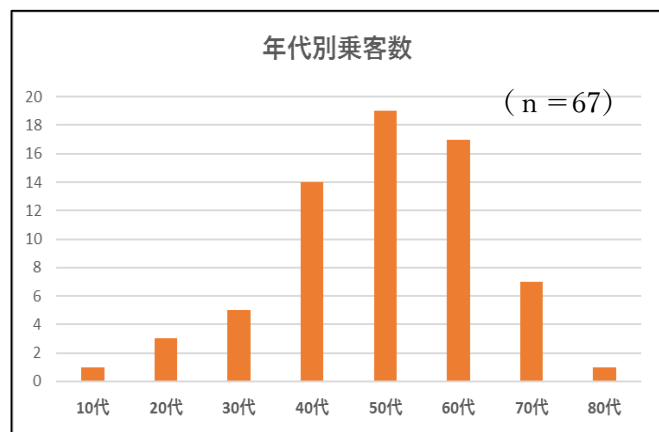
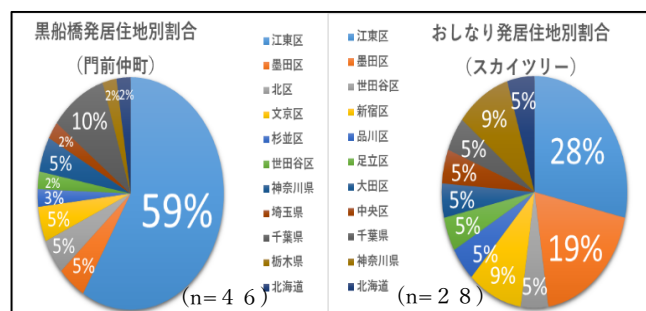


図2 年代別乗客数

乗客の居住地を乗船場別で集計すると、黒船橋乗船場発の便では江東区在住の方が59%と大半なのに対し、おしなり公園船着き場発の便では28%と大幅に減少した。それに対し墨田区在住の方は黒船橋乗船場では5%であったがおしなり公園船着き場では19%と増えた。(図3)

図3 アンケート回答者における居住地の割合
(2) 満足度調査アンケート分析結果

ツアーの金額に満足していると回答した割合は全体の80%以上を占めていた。これによりツアーの金額は現行通りで良いと考える。次にツアールートも同様に90%以上が満足しているという回答が得られた。最後にガイドの満足度を言葉遣い、声の聞き取りやすさ、ガイド内容の3項目を5段階評価で質問した。全ての項目においてやや良い、良いという回答が80%以上という高い結果を得ることができた。

次に5日間のツアー日数のうち、最終日の23日だけ雨が降ったので23日とそれ以外の日で分けて分析を行うことで天候別の乗客の満足度を比較する。ツアーの金額満足度を比較すると、晴れていた日において金額に満足していると回答した割合は90%と高い結果を得ることが出来たが、雨の降った23日では80%に届かない結果となった。(図4)

今回の舟運ツアーでは屋根なしの舟で行ったため、傘を差しながらの乗船になったことや雨による視界不良、気温の低さなどが満足度低下の原因として考えられる。

以上の結果から、今回企画した舟運ツアーの内容には高い評価を得ることができたと考えられるが、天候、気候が良くない日では乗客の満足度が低下することが分かった。

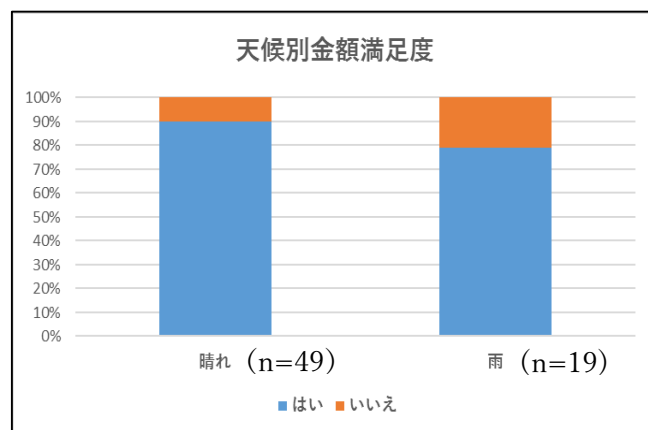


図4 天候別金額満足度

4. まとめと今後の課題

今回舟運ツアーを実施して2つの課題がまれた。1つ目はPR方法の再検討である。ツアーの乗客数は9回運航して総勢77名と当初の見込みよりも少ない結果となった。また客層も40代以上が大半と偏りも生まれた。そのため、若年層にも認知してもらえ新たなPR方法の検討を行う。2つ目は、気温の低い冬の運航についてである。採算性を取るためにも、気温の低くなる11月後半から2月までは運航を取りやめるなど運航方法を検討する必要があると考えられる。

謝辞

本研究は「一般社団法人 関東地域づくり協会」の助成を受け、「非営利活動法人江東区の水辺に親しむ会」の活動の一環として行ったものである。関東地域づくり協会様ならびに江東区の水辺に親しむ会の皆様には心より感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 矢野将成・遠藤玲：パッケージ型舟運ツアーの実現可能性, 第46回関東支部技術研究発表会
- 2) 墨田区, 舟運事業化検討調査 報告書, 平成23年3月・平成24年3月・平成25年3月